

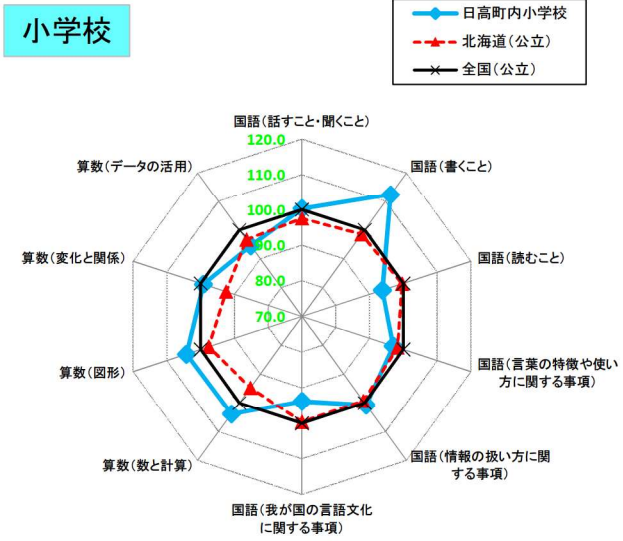
■ 日高町内の状況及び学力向上策（小学校数:4校、児童数:80人）（中学校数:4校、生徒数:77人）

【教科全体の状況】

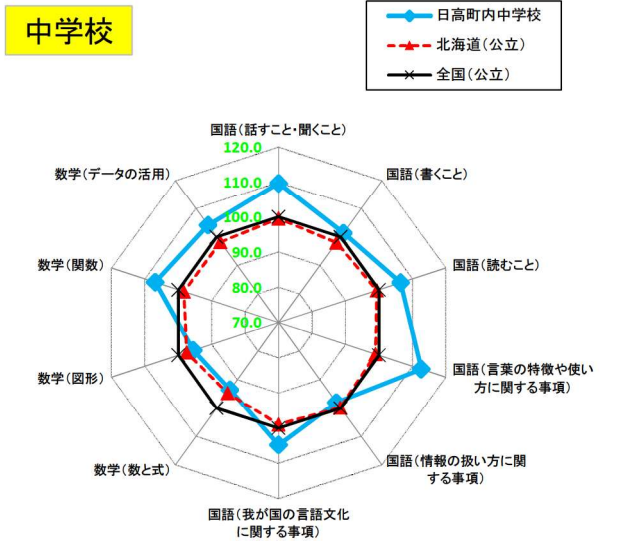
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)

平均正答率	小学校	中学校
国語	67	62
算数・数学	65	53

小学校

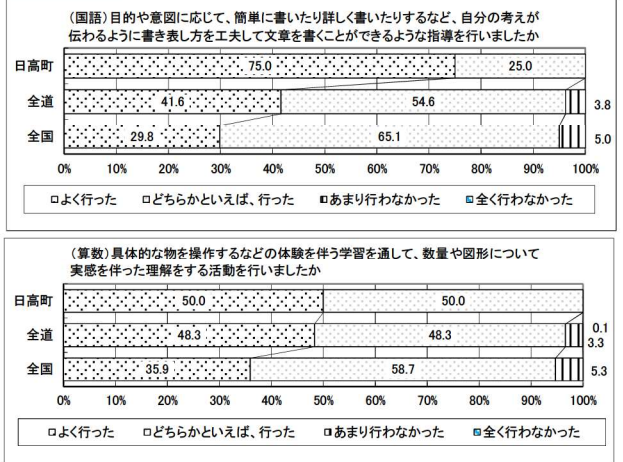


中学校

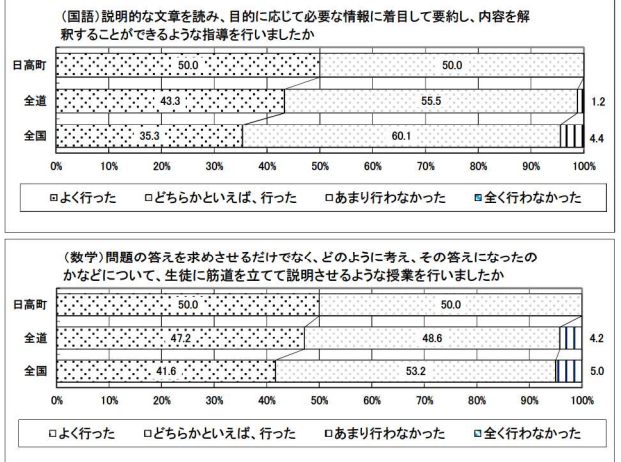


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、目的や意図に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書くことができるような指導を行ったことにより、国語の「書くこと」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

算数の授業において、具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感を持った理解をする活動を行ったことにより、算数の「数と計算」、「図形」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

国語の授業において、説明的な文章を読み、目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈することができるような指導を行ったことにより、国語の「読むこと」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

数学の授業において、問題の答えを求めさせるだけでなく、どのように考え、その答えになったのかなどについて、生徒に筋道を立てて説明させるような授業を行ったことにより、数学の「関数」、「データの活用」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【日高町の学力向上策】

- ◎ 学力向上3年次計画に基づく、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善の推進
- ◎ 1人1台端末の効果的な活用による「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた取組の推進
- ◎ 1人1台端末を活用した家庭学習の充実に向けた校種間及び家庭との連携強化

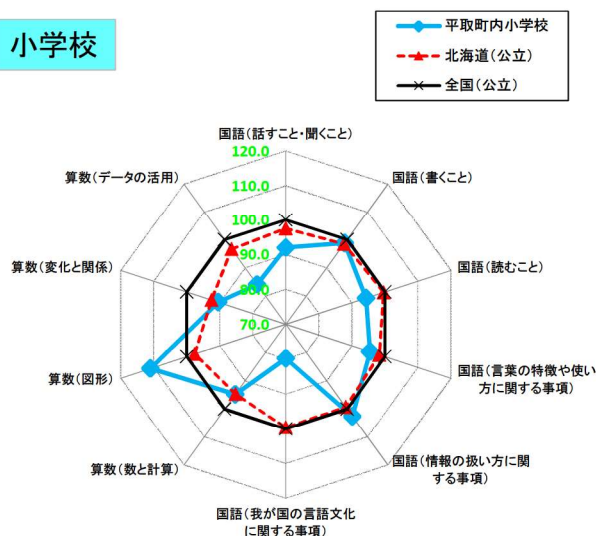
■平取町内の状況及び学力向上策（小学校数:5校、児童数:37人）（中学校数:2校、生徒数:42人）

【教科全体の状況】

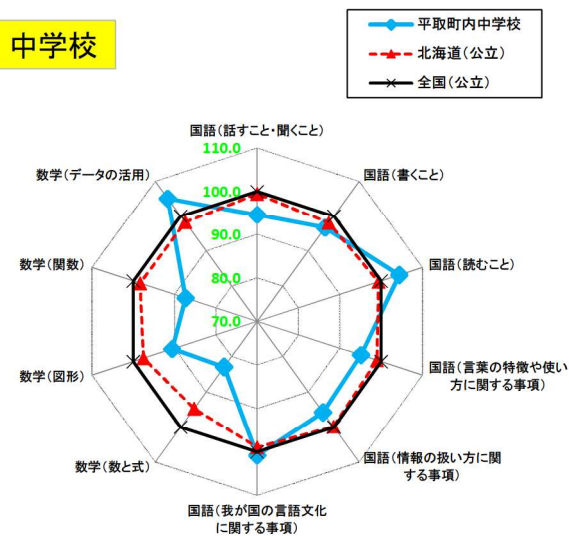
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	64	57
算数・数学	61	48

小学校

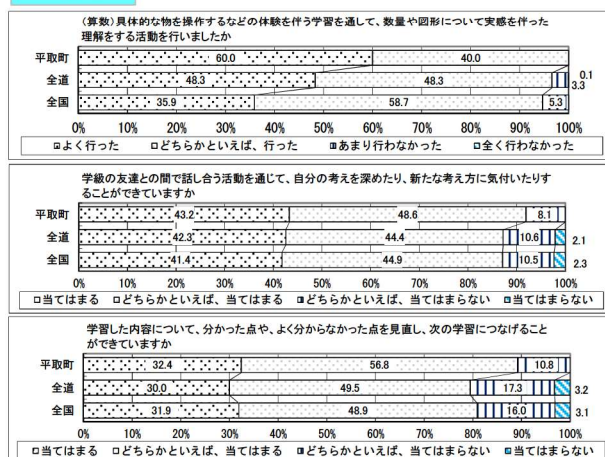


中学校

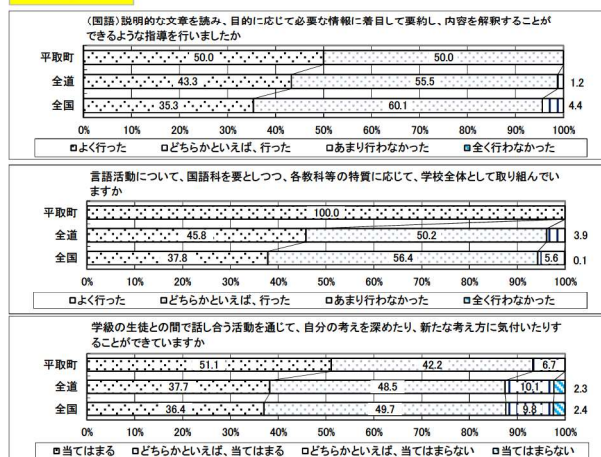


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校
算数の授業において、具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感を持った理解をする活動を行ったことにより、算数の「図形」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。
町指定教育推進事業・公開研究会による「主体的・対話的で深い学び」の視点に基づく授業改善を推進したことにより、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができると回答した児童及び学習した内容について、分かった点や、よく分らなかった点を見直し、次の学習につなげることができていると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校
国語の授業において、説明的な文章を読み、目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈することができるような指導を行ったことにより、国語の「読むこと」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。
言語活動について、国語科を要しつつ、各教科等の特質に応じて、学校全体として取り組んだことにより、学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【平取町の学力向上策】

- ◎ 町指定教育推進事業・公開研究会による「主体的・対話的で深い学び」の視点に基づく授業改善の推進
- ◎ 全国学力・学習状況調査や独自で行う標準学力検査の調査結果の分析・検証を踏まえた確かな学力の向上
- ◎ 教員のICT活用スキルの向上と児童生徒のICT機器活用能力の向上によるICTを活用した教育の推進

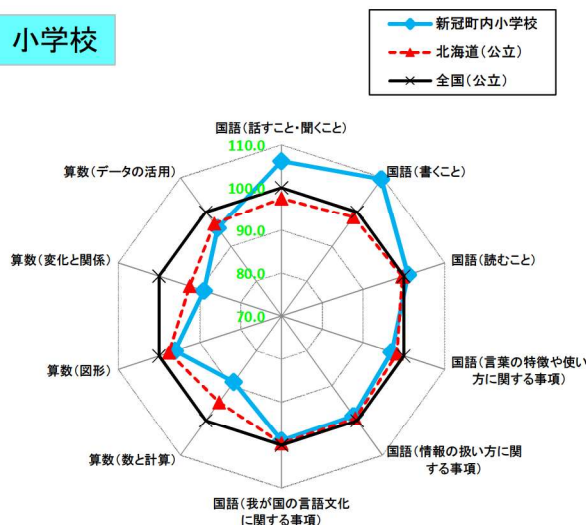
■新冠町内の状況及び学力向上策（小学校数：1校、児童数：42人）（中学校数：1校、生徒数：32人）

【教科全体の状況】

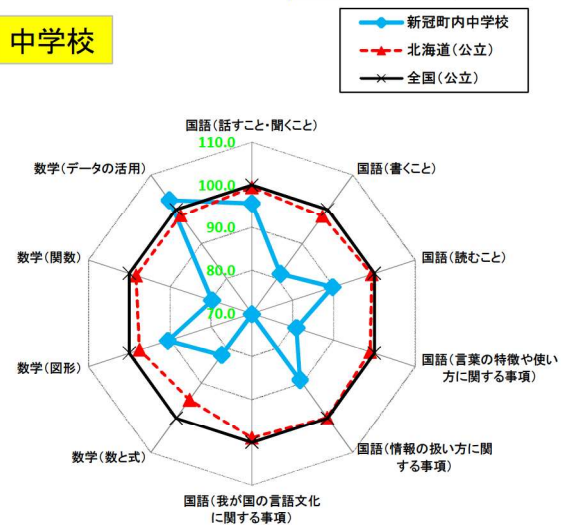
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	69	50
算数・数学	59	46

小学校

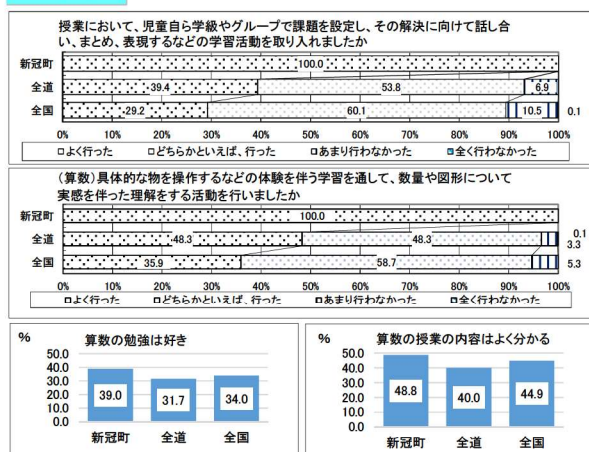


中学校



【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れたことにより、国語の「話すこと・聞くこと」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

算数の授業において、具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感を持った理解をする活動を行ったことにより、算数の勉強は好き及び算数の授業の内容はよく分かると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

町全体で小中一貫を意識した改善プランの実践と検証による授業改善を推進したことにより、先生は授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると肯定的に回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

ICT機器を効果的に活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた取組を推進するとともに、生徒が自分で調べる場面において、生徒一人一人に配備されたICT機器を使用させたことにより、ICT機器を活用して、自分のペースで理解しながら学習を進めることができると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【新冠町の学力向上策】

- ◎ 幼小中接続や小中一貫を意識したカリキュラム・マネジメント及び授業改善プランの実践と検証による授業改善の推進
- ◎ ICT機器を効果的に活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた取組の推進
- ◎ 校種連携により義務教育9年間を通して計画的・継続的に行われる発達段階に応じた家庭学習習慣の確立に向けた取組の推進

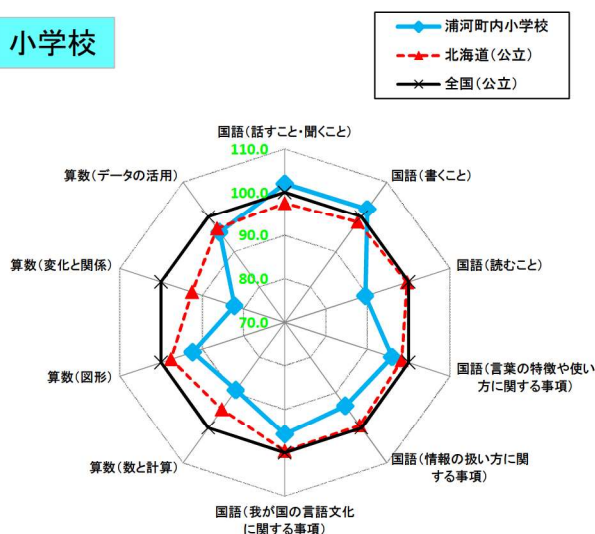
■浦河町内の状況及び学力向上策（小学校数:4校、児童数:70人）（中学校数:3校、生徒数:64人）

【教科全体の状況】

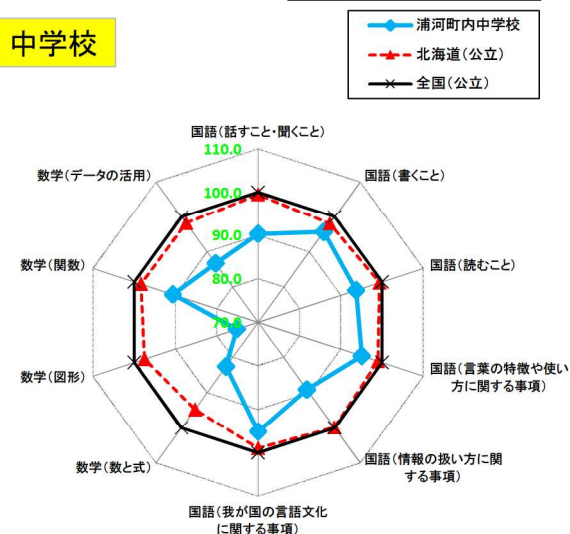
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	65	54
算数・数学	57	45

小学校

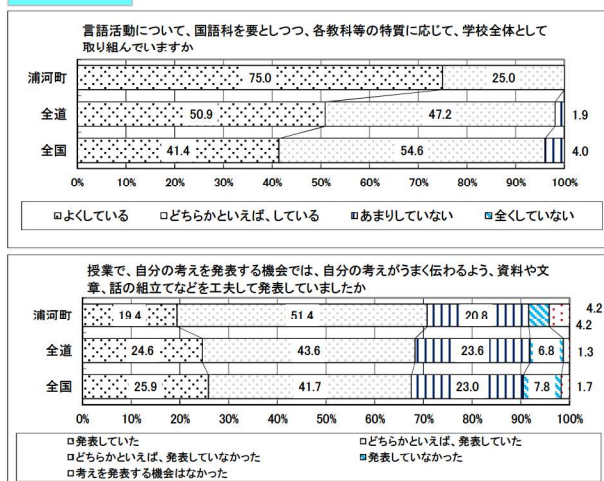


中学校

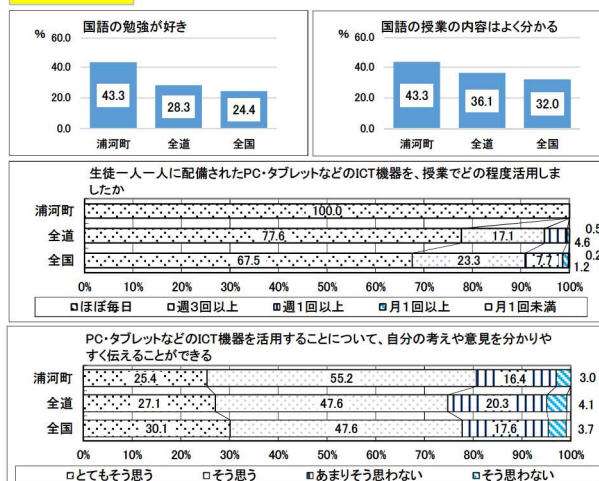


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校
授業において、言語活動について、国語科を要しつつ、各教科等の特質に応じて、学校全体として取り組んだことにより、国語の「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。
「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進及び学力向上に係る研修の充実により、授業改善が図られ、授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと肯定的に回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校
町内小・中学校で統一した「浦河町授業スタンダード」に基づいた授業改善の推進により、授業改善が図られ、国語の勉強が好き及び国語の授業の内容はよく分かると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。
生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でほぼ毎日活用したことにより、PC・タブレットなどのICT機器を活用、自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができると肯定的に回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【浦河町の学力向上策】

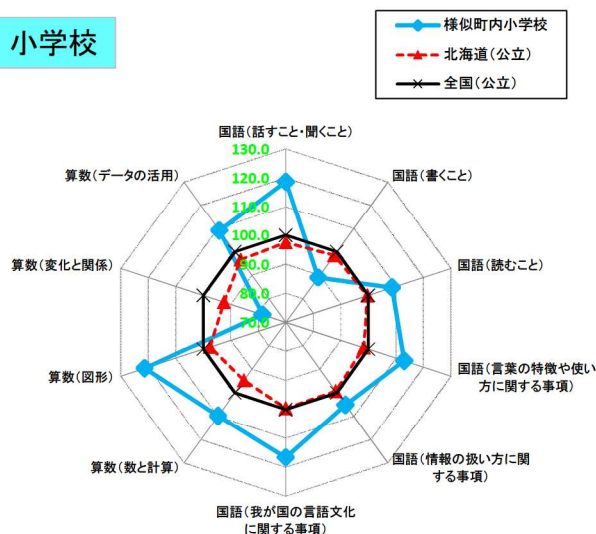
- ◎ 町内小・中学校で統一した「浦河町授業スタンダード」に基づいた授業改善の推進
- ◎ 学力向上に係る特別委員会、学力向上アドバイザーの専門家による年間を通じた研修、教育先進地視察など学力向上に係る研修の充実
- ◎ 「浦河町家庭学習のとりくみ」「浦河町アウトメディア宣言」での町内統一した学習習慣の定着と望ましい生活習慣の確立の一体的な取組の推進

■ 様似町内の状況及び学力向上策（小学校数：1校、児童数：23人）（中学校数：1校、生徒数：31人）

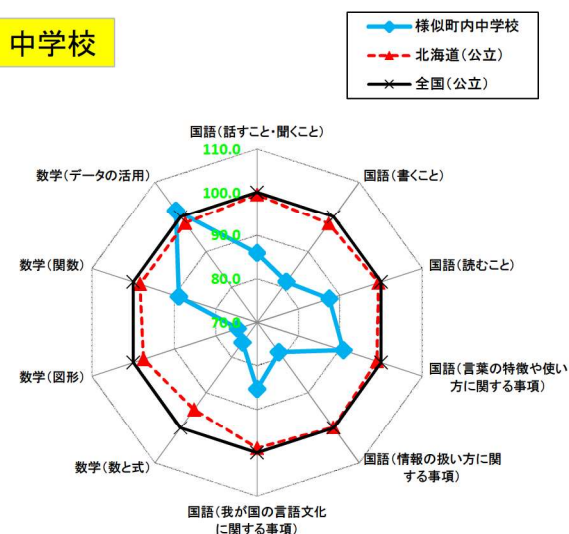
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

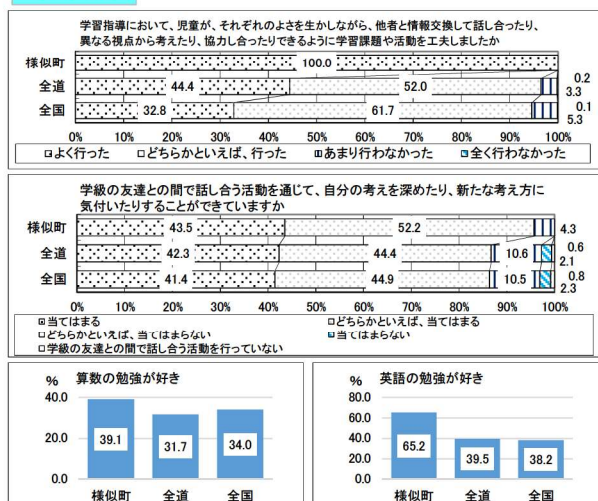


中学校

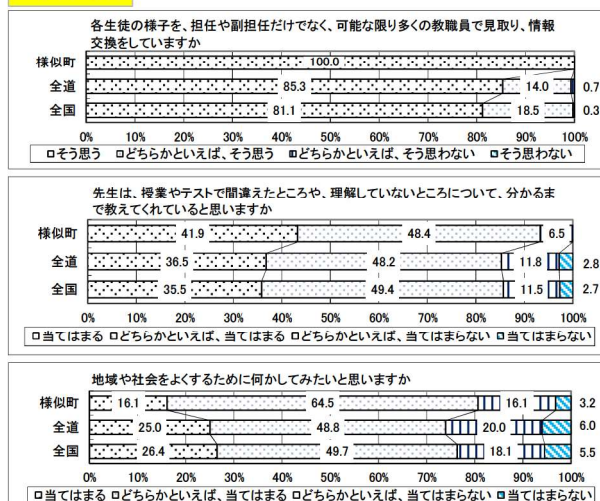


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

学習指導において、児童が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫したことにより、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語及び算数の平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

学校種の垣根を越えた「小中一貫相互授業」による教員の指導体制の構築を行ったことにより、算数及び英語の勉強が好きと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

各生徒の様子を、担任や副担任だけでなく、可能な限り多くの教職員で見取り、情報交換をしていることにより、先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思うと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

学校・家庭・地域が連携、協働しながら子どもたちの学びや成長を支える「コミュニティ・スクール」を推進したことにより、地域や社会をよくするために何かしてみたいと思うと肯定的に回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【様似町の学力向上策】

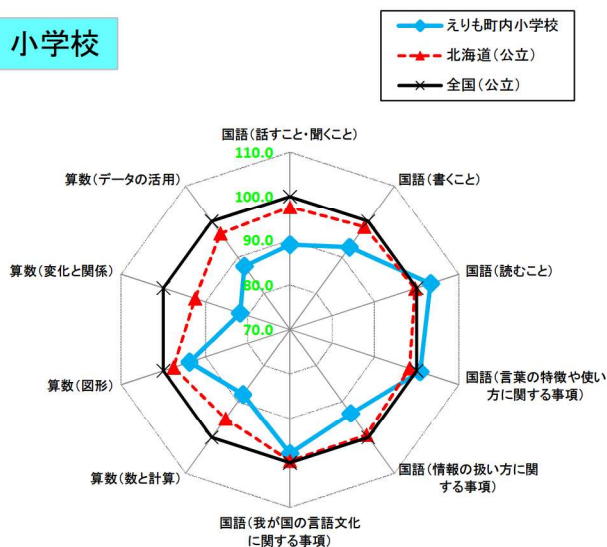
- ◎ 学校種の垣根を越えた「小中一貫相互授業」による教員の指導体制の構築及び小・中学校教員の合同研修による課題共有と小・中統一した授業スタイルの推進
- ◎ 民間学習塾と連携した既習事項の定着及び自発的な学習の習慣化に向けた取組の推進
- ◎ 学校・家庭・地域が連携、協働しながら子どもたちの学びや成長を支えるコミュニティ・スクールの推進

■えりも町内の状況及び学力向上策（小学校数:4校、児童数:37人）（中学校数:1校、生徒数:36人）

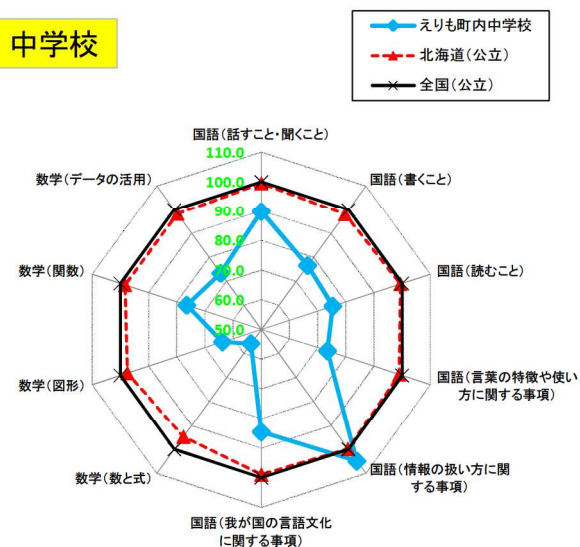
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

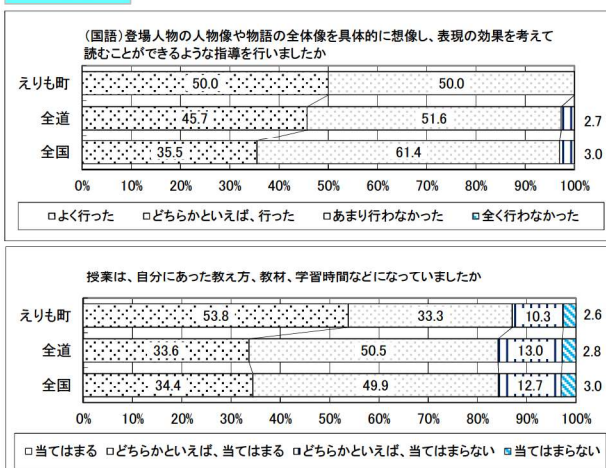


中学校

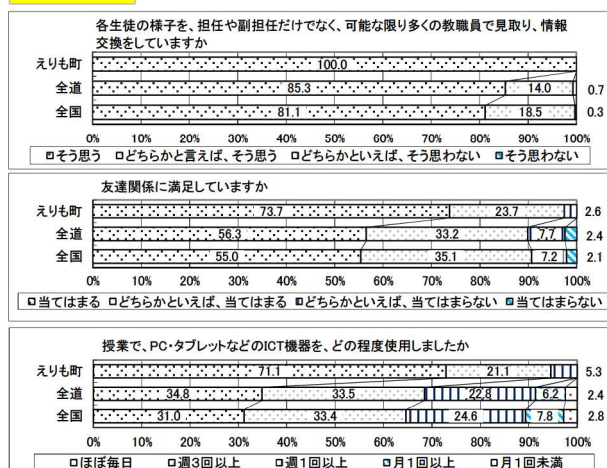


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、前年度までに、登場人物の人物像や物語の全体像を具体的に想像し、表現の効果を考えて読むことができるような指導を行ったことにより、国語の「読むこと」の領域、「言葉の特徴や使い方に
関する事項」で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

町全体で指導と評価の一体化を図る授業改善と個の考えの質を高める学び合いを推進したことにより、授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていたと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

各生徒の様子を、担任や副担任だけでなく、可能な限り多くの教職員で見取り、情報交換をしたことにより、友達関係に満足していると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

町全体でICTの有効活用を図る教育活動を行ったことにより、授業で、PC・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日使用したと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【えりも町の学力向上策】

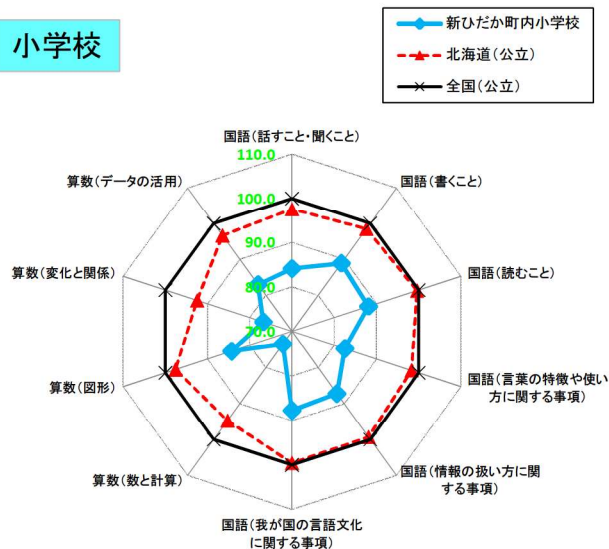
- ◎ 指導と評価の一体化を図る授業改善と個の考えの質を高める学び合いの推進
- ◎ ICTの有効活用を図る教育活動と書く活動の充実
- ◎ 幼小中高の接続と学びの連続の推進

■新ひだか町内の状況及び学力向上策（小学校数:3校、児童数:153人）（中学校数:3校、生徒数:141人）

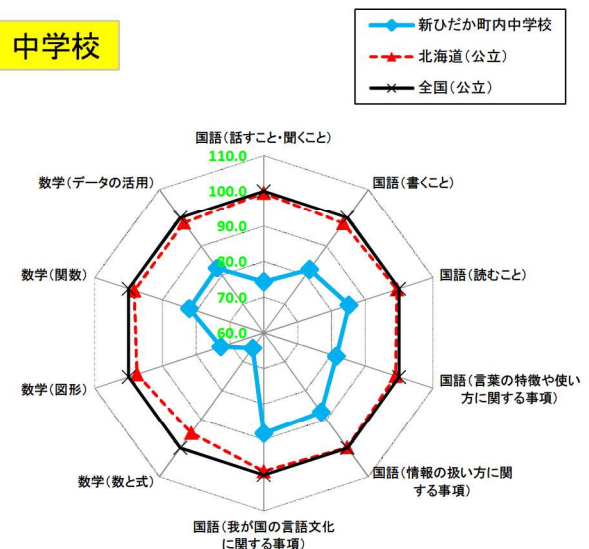
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

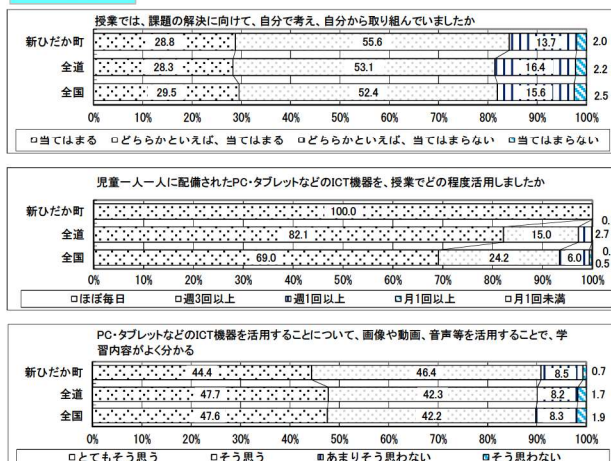


中学校

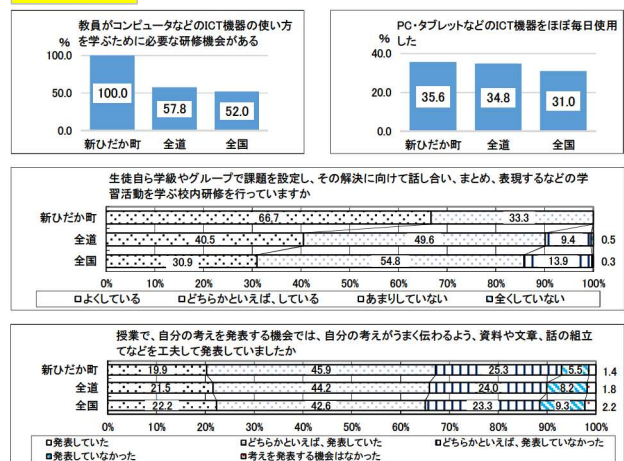


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

学力向上推進ブロックにおける小中の連携を図った学力向上の推進を行ったことにより、授業改善が図られ、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと肯定的に回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でほぼ毎日活用したことにより、PC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、画像や動画、音声等を活用することで学習内容がよく分かると肯定的に回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

町内全ての中学校において、教員がコンピュータなどのICT機器の使い方を学ぶために必要な研修機会を設けたことにより、PC・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日使用したと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

生徒自らの学習活動で課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行ったことにより、授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと肯定的に回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【新ひだか町の学力向上策】

- ◎ 中学校区を単位とした学力向上推進ブロックにおける小中の連携を図った学力向上の推進
- ◎ 「新しいかたちの学びの授業力向上推進事業」推進教員を中心としたICTの効果的な活用による授業改善の推進
- ◎ 授業との関連を図った家庭学習の取組とアウトメディアチャレンジの推進